

- 問1 藤原道長は、四人の娘を次々と天皇の后に送り込み、三人の天皇の母方の祖父となることで、摂関政治の全盛期を築きました。このように藤原氏が「外戚」という立場を重視した理由として、最も適切な背景はどれですか。(2021年 高知公立入試 類似)
1. 当時の政治権力の正当性が、実力や法律よりも、天皇との血縁関係の強さに依存していたから。
 2. 律令制度によって、摂政や関白の職は必ず天皇の祖父が務めるべきだと厳格に定められていたから。
 3. 武士の勢力が台頭しており、軍事力に対抗するために皇室との団結を誇示する必要があったから。
 4. 仏教の教えに基づき、親族が協力して政治を行うことが理想の国家像であると考えられていたから。
- 問2 平安時代後期、仏教の教えが衰える時代が来るとされる「末法思想」の影響により、貴族から民衆に至るまで広く普及した信仰があります。藤原頼通が宇治に平等院鳳凰堂を建立する動機となった、念仏を唱えて極楽浄土への往生を願うこの信仰を何といいますか。(2025年 山梨公立入試 類似)
1. 浄土信仰
 2. 禅宗
 3. 法華信仰
 4. 密教
- 問3 平安時代初期、朝廷が東北地方に住む蝦夷と呼ばれる人々の平定を進めた主な目的と、その後の経過について述べた文として最も適切なものはどれですか。(2017年 静岡公立入試 類似)
1. 東北地方まで朝廷の支配力を及ぼそうとしたが、多大な軍費と労力が民衆の負担となったため、後に平安京の造営とともに事業が停止された。
 2. 防人を配置して北方の守りを固めるため、坂上田村麻呂を派遣して、現在の九州地方にある大宰府を中心に支配を広げた。
 3. 御家人と呼ばれる武士たちに土地の支配を認める代わりに、東北地方の特産品を朝廷に納めさせる仕組みを整えた。
 4. 仏教の力で国家を守るために、東北地方の各地に国分寺や国分尼寺を建立し、争いを避けて平和的な統治を目指した。
- 問4 平安時代中期、藤原氏が自身の娘を天皇の妃とし、その子を天皇に立てることで政治の実権を握りました。天皇が幼少のときはその後見人として、成人してからはその補佐役として政治を行ったこの体制を何といいますか。(2024年 埼玉公立入試 類似)
1. 摂関政治
 2. 院政
 3. 律令政治
 4. 幕府政治
- 問5 平安時代の藤原道長と、平安時代末期の平清盛の権力掌握について述べた次の文のうち、その背景や手法として誤っているものはどれですか。(2021年 埼玉公立入試 類似)
1. 藤原道長は、自分の娘たちを次々と天皇の后に入れることで、複数の天皇の「外戚」として権力を独占した。
 2. 平清盛は、武力で政治を支配する一方で、藤原氏と同じように天皇と婚姻関係を結ぶことで政権の正当性を得ようとした。
 3. 藤原氏や平氏が外戚として政治を行ったのは、天皇が幼少の際などに「摂政」や「関白」として補佐する仕組みがあったからである。
 4. 藤原道長も平清盛も、天皇が位を譲った後の「上皇」として政治を行うことで、摂政や関白の権限を無力化させた。
- 問6 平安時代の政治史において、藤原道長の娘である彰子が一条天皇の后となり、後の後一条天皇が生まれた流れと、平清盛の娘である徳子が高倉天皇の后となり、安德天皇が生まれた流れには共通点があります。これらの事例から読み取れる、平氏の政治手法の背景として最も適切な説明はどれですか。(2026年 山形公立入試 類似)
1. 天皇の母方の親戚という立場を利用し、摂関家と同様の仕組みで朝廷の権力を握ろうとした。
 2. 武力によって天皇を退位させ、武士独自の新しい政治制度を樹立しようとした。
 3. 上皇が政治を行う「院政」を支える組織として、独自の軍事貴族の地位を確立しようとした。
 4. 地方の武士団を直接統制するために、各国に守護を配置して軍事的なネットワークを構築した。
- 問7 平安時代、894年に遣唐使が停止されたことをきっかけとして、日本独自の風土や感覚に合わせた文化が発達しました。この文化の名称として正しいものはどれですか。(2021年 福岡公立入試 類似)
1. 国風文化
 2. 天平文化
 3. 飛鳥文化
 4. 桃山文化
- 問8 平安時代の皇族と藤原氏のつながりを示す系図において、藤原道長が自分の娘である彰子などを次々と天皇の后(きさき)にし、その子供が天皇に即位する流れが繰り返されていることがわかります。藤原氏がこのようにして権力を独占した手法と目的について説明したものと、最も適切なものはどれですか。(2017年 埼玉公立入試 類似)
1. 天皇の母方の祖父(外戚)という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため
 2. 武士団を組織して軍事的な圧力をかけ、太政官などの伝統的な行政組織を廃止するため
 3. 天皇の位を廃止して、藤原氏自らが新しい王朝を開くための正当性を得るため
 4. 遣唐使を通じて得た海外の知識を独占し、天皇を政治から遠ざけて知識層による共和制を行うため
- 問9 国風文化が栄えた平安時代の貴族の生活空間において、広い庭園を囲むように中心となる建物と周囲の建物が廊下で結ばれた建築様式を何といいますか。(2022年 京都公立入試 類似)
1. 寝殿造
 2. 書院造
 3. 合掌造
 4. 武家造
- 問10 平安時代初期、最澄は唐に渡って仏教を学び、帰国後に比叡山に延暦寺を建立して新しい宗派を広めました。この宗派の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。(2019年 三重公立入試 類似)
1. 天台宗
 2. 真言宗
 3. 浄土宗
 4. 臨済宗
- 問11 平清盛が推し進めた対外政策の目的と内容について、当時の時代背景を踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。(2018年 熊本公立入試 類似)
1. 瀬戸内海の制海権を握り、大輪田泊を整備して宋から輸入した銅銭を国内に流通させた。
 2. 勘合を用いて倭寇を区別し、明との間で公的な貿易を行い銀や刀剣を輸出した。
 3. 遣唐使を派遣して大陸の優れた律令制度や仏教文化を導入し、天皇中心の国づくりを目指した。
 4. 元寇による脅威に対抗するため、博多湾沿岸に石築地を築き防衛を強化した。
- 問12 日本の古代における文化の変遷について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。なお、古代の政治と暮らしを対比させた資料によると、律令政治が確立した時期から、文字の使用状況に大きな変化が見られたことが示されています。(2020年 滋賀公立入試 類似)
1. 奈良時代には遣唐使によって唐の優れた文化が伝えられ、正倉院の宝物に代表されるような国際色豊かな文化が栄えた。その後、平安時代には日本人の生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字が広く使われるようになった。
 2. 飛鳥時代にはかな文字を用いた和歌が広く親しまれ、奈良時代になると聖徳太子を中心に遣唐使が派遣されて、正倉院に納められるような大陸の仏教文化が日本に初めて伝えられた。
 3. 奈良時代に菅原道真の建議で遣唐使が廃止されたことで、漢字を捨ててかな文字のみを用いる国風文化が誕生し、平安時代には正倉院に見られるような国際的な仏教文化が全盛期を迎えた。
 4. 飛鳥時代から始まった国風文化は、奈良時代の遣唐使の往来によって国際的な要素を取り入れて洗練され、平安時代に入るとかな文字の普及によって正倉院の建築様式に大きな影響を与えた。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 当時の政治権力の正当性が、実力や法律よりも、天皇との血縁関係の強さに依存していたから。	摂関政治は、天皇を母方から支えるという血縁関係に基づいた私的な権力構造でした。法律（律令）に明文化された職権以上に、「天皇の祖父や伯父である」という家族的な地位が政治的な発言力の源泉となっていたため、藤原氏は必死に娘を后にし、男子が生まれることを願ったのです。のちに藤原氏を母に持たない後三条天皇が即位したことで、この政治体制は崩壊へと向かいました。
問2	答え 1 浄土信仰	平安時代中期から、社会の混乱を背景に「浄土信仰」が盛んになりました。平等院鳳凰堂はその信仰を視覚的に表現した最高傑作とされ、内部には美しい阿弥陀如来像が安置されています。この文化は国風文化の一つに分類されます。
問3	答え 1 東北地方まで朝廷の支配力を及ぼそうとしたが、多大な軍費と労力が民衆の負担となったため、後に平安京の造営とともに事業が停止された。	朝廷は律令国家の支配領域を拡大するために東北地方へ進出しましたが、蝦夷の強力な抵抗に遭い、戦争は長期化しました。長引く戦争（軍事）と新都・平安京の建設（造作）は国家財政を圧迫し、農民の生活を困窮させました。805年、藤原緒嗣が「民衆が苦しんでいるのはこの二つの事業のせいである」と主張し、桓武天皇がその意見を受け入れたことで方針が転換されました。
問4	答え 1 摂関政治	藤原氏が天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用して、摂政や関白の職を独占した政治形態を指します。11世紀の藤原道長・頼通の親子の時代に全盛期を迎えました。これに対し、天皇が位を譲った後に上皇として行う政治を「院政」と呼び、区別する必要があります。
問5	答え 4 藤原道長も平清盛も、天皇が位を譲った後の「上皇」として政治を行うことで、摂政や関白の権限を無力化させた。	上皇（または法皇）として政治を行う「院政」を始めたのは白河上皇であり、藤原氏や平氏の権力掌握手法とは異なります。藤原道長や平清盛は、あくまで天皇の母方の祖父（外戚）という立場から、摂政や関白、あるいは太政大臣といった朝廷の役職を通じて政治を動かしました。院政は、こうした外戚（摂関家）による支配に対抗するために始まった仕組みという側面があります。
問6	答え 1 天皇の母方の親戚という立場を利用し、摂関家と同様の仕組みで朝廷の権力を握ろうとした。	平清盛は、藤原氏が全盛期を築いた「摂関政治」のモデルを継承しました。具体的には、娘を天皇の妃に送り込み、誕生した皇子を天皇に即位させることで、自らが天皇の祖父（外戚）として権力を振るう手法です。これにより、平氏は単なる武士団のリーダーとしてだけでなく、朝廷の最高権力者としての地位を固めました。一方で、この急速な権力集中は他の貴族や武士、寺社勢力の反発を招く原因にもなりました。
問7	答え 1 国風文化	菅原道真の建議によって遣唐使が停止されたことで、中国（唐）の影響を受けつつも、日本の風土や生活感覚に合わせた独自の「国風文化」が開花しました。この時期には、漢字を簡略化した「かな文字」が発明され、日本人の心情を豊かに表現できるようになりました。
問8	答え 1 天皇の母方の祖父（外戚）という立場を確立し、天皇を後見することで政治の実権を握るため	藤原氏は「外戚（がいせき）」、つまり天皇の母方の親戚となることで、宮廷内での発言力を極限まで高めました。藤原兼家や道長は、娘を天皇の妃として送り込み、生まれた皇子が即位すると、その祖父として摂政などの要職に就きました。これは武力によるクーデターではなく、当時の婚姻制度や家族形態を利用した権力独占の仕組みです。
問9	答え 1 寝殿造	国風文化の代表的な建築様式である寝殿造は、貴族の邸宅に用いられました。池や木々を配置した庭園の景観を重視し、風通しの良い開放的な構造が特徴です。これは日本の自然環境や貴族の生活習慣に適応した建築の形といえます。
問10	答え 1 天台宗	平安時代初期、桓武天皇の支持を受けた最澄は、比叡山（滋賀県・京都府の境）に延暦寺を建て、天台宗を広めました。同時期に空海が伝えた真言宗とともに、当時の貴族の間に深く浸透しました。
問11	答え 1 瀬戸内海の制海権を握り、大輪田泊を整備して宋から輸入した銅銭を国内に流通させた。	平清盛は、日宋貿易を通じて宋銭（銅銭）を大量に輸入し、これを国内で流通させることで、土地の支配に頼らない独自の経済力を手に入れようとしていました。また、瀬戸内海を平定して航路の安全を確保し、自身の拠点である福原に近い大輪田泊を整備したことも、平氏の全盛期を築く大きな要因となりました。
問12	答え 1 奈良時代には遣唐使によって唐の優れた文化が伝えられ、正倉院の宝物に代表されるような国際色豊かな文化が栄えた。その後、平安時代には日本人の生活に合わせた国風文化が発達し、かな文字が広く使われるようになった。	奈良時代は、遣唐使によってもたらされた唐の文化や、シルクロードを経由した西アジア・インドなどの影響を強く受け、聖武天皇の遺品などが納められた正倉院の宝物に見られるような国際的な天平文化が栄えました。続く平安時代には、遣唐使の停止などをきっかけに、日本の風土や生活感覚に合わせた国風文化が発達しました。その過程で、漢字を簡略化した「かな文字」が考案され、物語や日記などの文学が発展しました。